

特 集

中海・宍道湖の浮遊物質、堆積物と環境変化

汽水域をフィールドとして学際的な研究を推進してきた汽水域研究会も 2009 年 11 月 1 日の発足から 2019 年で丸 10 年が経過することになります。一方、日本における汽水域研究の先鞭をつけ、また汽水域研究会発足の中心となった島根大学汽水域研究センターは、1992 年 4 月 10 日に設置後、25 年目の 2017 年 4 月にエスチュアリー研究センターに改組・改名されました。この度、これらの一つの区切りとして長年行われてきた宍道湖・中海の研究成果の特集号を組むことが企画されました。2001 年に出版された「汽水域の科学—中海・宍道湖を例として」（たたら書房）からも 20 年が経過しようとしており、この間に行われた研究のとりまとめを行うことを目指しました。

汽水域を取り巻く環境はこの 10 年で大きく変わろうとしています。国営事業として行われてきた干拓・淡水化事業は 2014 年に事業が完了し（本号徳岡論文参照）、現在は汽水域の持続的な保全や利活用が重要な課題となってきています。汽水域研究会の目的である「学際的な研究領域である“汽水域研究”を発展させること、汽水域の環境保全・修復、持続的な利用などについて検討・提言を行い、社会貢献すること」は、社会のための科学や学問として、より重要性が増してきているといえます。

特集号は 2 巻を予定しており、本号では浮遊物質や堆積物に関して近年の研究成果を中心としました。特集号に投稿頂いた著者、また査読にご協力頂いた方々、英文校閲にご協力頂いたアリゾナ大学の David Dettman 博士（島根大学エスチュアリー研究センター客員研究員）に御礼申し上げます。

特集号編集委員会

編集委員長

齋藤文紀（島根大学エスチュアリー研究センター）

編集委員

三瓶良和（島根大学総合理工学部）

瀬戸浩二（島根大学エスチュアリー研究センター）

香月興太（島根大学エスチュアリー研究センター）